

2019年6月24日

<報道関係各位>

ギリアド・サイエンシズ株式会社

当資料は、米国ギリアド・サイエンシズ社が、2019年6月24日（現地時間）に発表した英文プレスリリースを日本語に翻訳、一部編集したものです。正式な言語は英語であり、その内容ならびに解釈については英語が優先いたします。

ギリアドとカルナバイオサイエンス、 新たながん免疫療法薬の開発を目的とした共同研究開発を発表

ギリアド・サイエンシズ（本社：米カリフォルニア州フォスターシティ、ナスダック：GILD、以下「ギリアド」）と、カルナバイオサイエンス株式会社（本社：神戸市、ジャスダック：4572、以下「カルナ」）は6月24日、がん免疫療法分野で低分子化合物を開発および製品化するとともに、カルナ独自の脂質キナーゼ薬の創薬プラットフォームを利用できる共同研究開発契約を締結したことを発表しました。

ライセンス契約に基づき、ギリアドはカルナの有する、まだ公開されていないがん免疫療法の標的に対する阻害薬を全世界で開発および製品化する権利に関するライセンスを取得することになります。本契約に関連して、カルナには契約一時金として2,000万ドルが支払われることに加え、開発および商品化における特定のマイルストーンを達成すれば、追加で4億5,000万ドルを限度としたマイルストーンペイメントを受ける資格が与えられます。さらに今後の純売上高に応じてロイヤルティも支払われることになります。

「カルナでは、脂質シグナル伝達経路を標的としたがん免疫療法薬のパイプラインに関してギリアドと提携できることを喜ばしく思っています。なぜなら、脂質シグナル修飾薬は次世代のがん免疫療法薬となる可能性を持っていると考えるからです。」と、カルナの取締役研究開発本部長である澤 匡明（Masaaki Sawa, Ph.D）は述べています。

この提携により、ギリアドはカルナ独自の脂質キナーゼ薬の創薬プラットフォームを独占的に利用することになります。

「カルナは、サイエンスに基づく革新性と生産性の高さで知られるバイオファーマ企業であるギリアドと協働していくことに大きな期待を寄せています。」と、カルナの代表取締役社長である吉野公一郎（Kohichiro Yoshino, Ph.D）は述べています。「カルナ独自の脂質キナーゼ薬の創薬技術プラットフォームを利用することにより、

当社の創薬サポートチームが、ギリアドにおける革新的ながん免疫療法薬となりうる薬剤の開発にも貢献できることを誇りに思います。」

「ギリアドは、ファーストインクラスとなりうる、または他の治療選薬との明確な差別化を図る薬剤の開発に重点を置き、がん免疫療法分野におけるパイプラインの確立に取り組んでいます。」と、ギリアドの研究開発部門のヘッド兼チーフ・サイエンティフィック・オフィサーのジョン・マクハチソン（John McHutchison, AO, M.D.）は述べています。「カルナとの提携はこの戦略を反映したものであり、患者に潜在的ベネフィットをもたらすため、カルナのチームと協働して新たながん免疫療法薬を臨床試験へと進めていくことを楽しみにしています。」

カルナバイオサイエンスについて

カルナバイオサイエンスは、キナーゼ阻害薬の創製と開発に重点を置いたバイオフーマ企業であり、がんや自己免疫疾患および神経疾患の進行につながるキナーゼを阻害することにより、アンメット・メディカルニーズに 대응しています。同社は2003年に、日本オルガノン株式会社からスピノフして神戸市に設立されました。当初重視したのはキナーゼ薬の創製のために多数の最先端かつ最高品質の試薬を開発することでしたが、以来、独自の化合物ライブラリーの膨大な集積により先進的な創薬プログラムを確立してきました。詳細については、www.carnabio.comをご覧ください。

ギリアド・サイエンシズについて

ギリアド・サイエンシズ・インクは、医療ニーズがまだ十分に満たされない分野において、革新的な治療を創薬、開発、製品化するバイオフーマ企業です。会社の使命は、生命を脅かす病を抱える世界中の患者さんのために医療を向上させることです。カリフォルニア州フォスターシティに本社を置き、世界35か国以上で事業を行っています。ギリアド・サイエンシズに関する詳細については、同社ウェブサイト www.gilead.com をご覧ください。

ギリアドの将来予想に関する記述

本プレスリリースは、1995年米国民事証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）で定義される「将来予測に関する記述」に該当し、いくつかのリスク、不確定要素、およびその他の要因を含む場合があります。これには、両社がこの提携から潜在的利益を得られず、この提携を通じてギリアドががん免疫療法薬候補を創製、開発、および製品化できないリスクなどがあります。歴史的事実以外の全ての記述は、将来予想に関する記述とみなしてください。これらのリスク、不確定要素、およびその他の要因により、実際の結果が「将来予想に関する記述」と著しく異なったものとなる可能性があります。将来予想に関する記述のみに依拠することはお控えください。これらのリスクやその他のリスクについては、米国証券取引委員会に提出している、2019年3月31日を期末とするギリアド社四半期報告書（フォーム 10-Q）で詳細に説明しています。将来予想に関する記述は全て、ギリアドが現在入手できる情報に基づいており、ギリアドは将来予想に関する記述を更新する義務を負いません。

###